

2011年の大雨

平成23年7月新潟・福島豪雨， 台風第12号及び台風第15号による記録的な大雨

1. 概要

梅雨入りは沖縄地方から関東甲信地方にかけてはかなり早く、北陸地方と東北地方では遅かった。梅雨明けは全国的に早く、特に、沖縄地方と中国地方から東北地方にかけてはかなり早かった。

7月の終わりには、平成23年7月新潟・福島豪雨により、新潟県と福島県会津では記録的な大雨となり甚大な災害が発生した。また、9月には台風第12号と台風第15号による記録的な大雨により甚大な災害が発生した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。降水量を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、内閣府取りまとめ資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 5月10日～5月12日：西日本（暴風，大雨）

<台風第1号>

7日21時にフィリピンの東海上で発生した台風第1号は、バシー海峡を北上した後北東へ向きを変え、沖縄本島に接近し、日本の南海上を北東へ進んだ後、12日03時に熱帯低気圧となり、13日03時に本州の東海上で温帯低気圧に変わった。沖縄・奄美から東日本にかけての一部で大雨となり、西日本の一部では強風となった。

このため、西日本では電力障害や交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(2) 5月28日～5月30日：西日本から北日本（暴風，大雨，高波）<台風第2号>

21日21時にヤップ島の南海上で発生した台風第2号は、フィリピンの東海上を北上した後北東へ向きを変

え、沖縄本島に接近し、29日15時に四国の南海上で温帯低気圧に変わった。西日本から北日本にかけての一部で大雨となり、西日本の一部で暴風となったほか、西日本から東日本にかけての太平洋側で大しけとなった。

このため、愛媛県などで死者・行方不明者が2名となり、家屋損壊や土砂災害、電力障害、交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(3) 6月12日～6月25日：全国（大雨）<梅雨前線>

12日から17日にかけて、梅雨前線が華中から日本の太平洋側沿岸に停滞し、前線上の低気圧が九州を通過して東海沖を東へ進んだため、西日本および東海の一部で大雨となった。18日から21日にかけては、九州を通過して日本の太平洋側沿岸に梅雨前線が停滞し、九州の一部で大雨となった。また、22日から25日にかけては、梅雨前線が日本海から東北地方に停滞し、北陸から東北地方にかけての一部で大雨となった。

前線の影響のため、熊本県などで死者・行方不明者が2名となり、浸水や家屋損壊、土砂災害、電力障害、交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(4) 6月24日～6月26日：西日本から北日本（暴風，大雨，高波）<台風第5号>

22日09時にフィリピンの東海上で発生した台風第5号は、北西へ進路を変えるとともに、徐々に速度を上げ、24日18時に先島の南海上で勢力が最大となった。台風は東シナ海を北へ進んだ後、山東半島付近で急激に北東へ進路を変えた後、27日15時に朝鮮半島の北西沿岸で温帯低気圧に変わった。西日本から北日本にかけての一部で大雨となり、西日本の一部で暴風となったほか、先島諸島付近で大しけとなった。

この台風の影響により、静岡県などで死者・行方不明者が2名となり、家屋損壊や電力障害、交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(5) 7月17日～7月21日：
西日本から東日本（暴風，大雨，高波）＜台風第6号＞

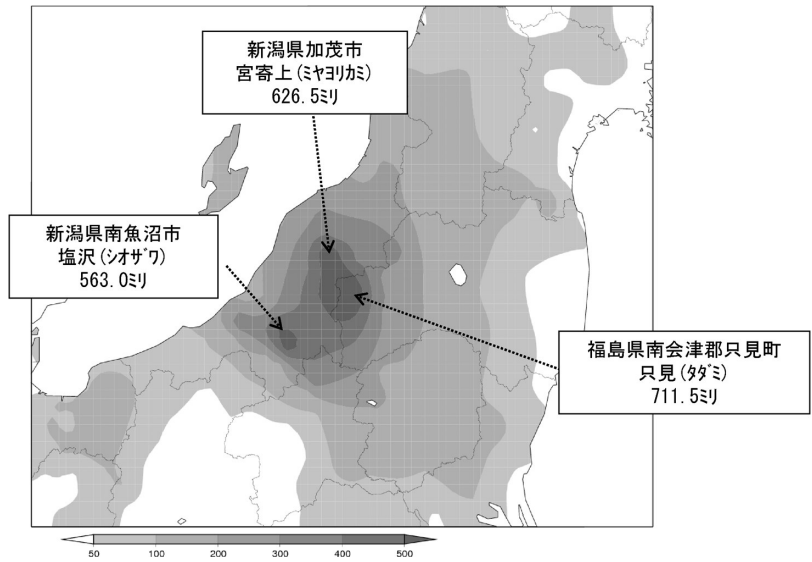
12日09時に南鳥島の南東海上で発生した台風第6号は、西へ進んだ後北西の向きを変え、19日23時頃に徳島県南部に上陸した。その後東に進んだ台風は、20日10時前、和歌山県潮岬付近を通過し、その後南東へ向かった。台風は、22日午前中に北東へ向きを変え、24日21時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。四国地方から関東地方にかけての太平洋側を中心に大雨となり、高知県馬路村魚梁

瀬では、日降水量で851.5mmを観測し、気象庁の現在観測しているすべての観測地点におけるそれまでの日降水量最大値（1968/9/26尾鷲，806.0mm）を更新した。降り始めからの総雨量が7月の月降水量平年値を超える記録的な大雨となったところがあった。また、台風により西日本から北日本の太平洋沿岸では平均風速20m/sを超える暴風となり、西日本から東日本にかけての太平洋側で猛烈なしけとなった。

この台風により、三重県と高知県で死者2名、奈良県で行方不明者が1名となったほか、家屋損壊や浸水、土砂災害、交通障害、電力障害等が発生した。（被害の状況は平成23年8月18日内閣府まとめによる）

(6) 7月27日～7月30日：新潟県，福島県（大雨）
（平成23年7月新潟・福島豪雨）＜前線＞

7月27日から30日にかけて、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。特に、28日から30日にかけては、前線が朝鮮半島から北陸地方を通して関東の東にかけて停滞し、前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となって、新潟県と福島県会津を中心に「平成16年7月新潟・福島豪雨」を上回る記録的な大雨となった。この7月27日から30日にかけて災害をもたらした大雨について、気象庁は「平成23年7月新潟・福島豪雨」と命名した。第1図に7月27日から7月30日にかけての総雨量分布図



第1図 総雨量分布図（期間：7月27日～7月30日）。

を示す。

この大雨により、新潟県で死者4名、行方不明者1名、福島県で行方不明者1名となったほか、新潟県、福島県では各地で堤防の決壊や河川の氾濫による住家の浸水・農地の冠水が発生し、土砂災害による住家や道路の被害も多数発生した。その他、電力障害、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。（被害の状況は平成23年12月28日内閣府まとめによる）

(7) 8月1日～8月7日：西日本から東日本（大雨，暴風，突風，高波）＜台風第9号＞

7月28日15時にグアム島の南西海上で発生した台風第9号は西へ進んだ後北の向きを変え、8月5日22時頃に沖縄県久米島付近を通過した。その後東シナ海を北に進み、8日に朝鮮半島に上陸し、9日09時に中国東北区で熱帯低気圧に変わった。沖縄から九州にかけての一部で大雨や暴風となり、栃木県では突風が発生した。また、沖縄本島付近では猛烈なしけとなった。

この台風の影響により、高知県などで死者・行方不明者4名となったほか、浸水、土砂災害、交通障害、電力障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(8) 8月14日～8月25日：全国（大雨，暴風，竜巻）＜前線，低気圧＞

14日から15日にかけて、前線を伴った低気圧が北海

道を通り、北海道の一部で大雨となった。また、高気圧の縁辺を回る湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となったため、九州の一部では大雨となった。16日から18日にかけて、前線が東北地方に南下したため、湿った空気が西日本から東北地方にかけて流れ込んだ。西日本から東日本の日本海側と、東北地方の一部で大雨となった。19日から25日にかけて、前線が西日本から東日本に停滞し、西日本から東日本にかけての一部で大雨となった。また、上空に寒気を伴った気圧の谷の影響を受けて、北海道の一部では21日を中心に大雨となった。

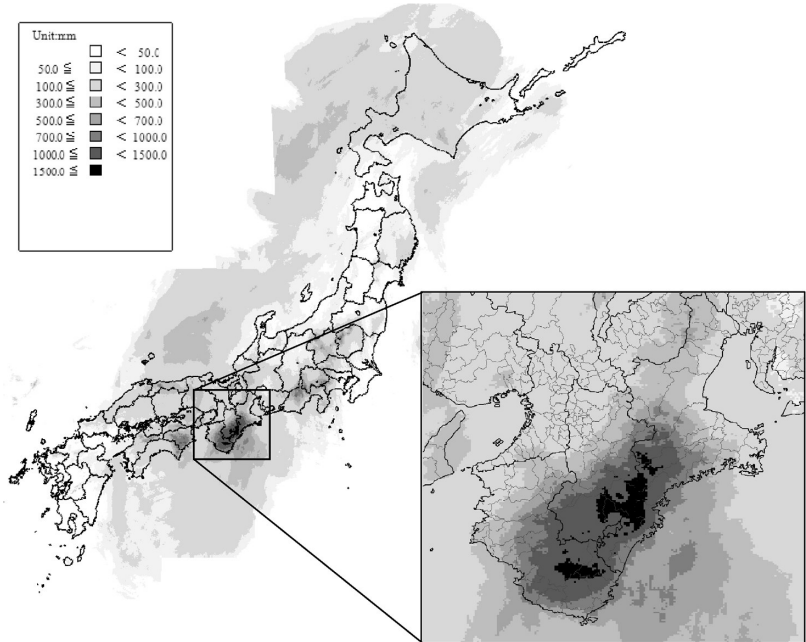
また、21日は、前線上の低気圧が中国地方を通過した。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州北部地方では大気の状態が非常に不安定となり、竜巻や突風が発生した。

これらの前線や低気圧の影響により、山口県などで死者・行方不明者4名となったほか、家屋損壊や浸水、土砂災害、交通障害、電力障害等が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

(9) 8月30日～9月5日：西日本から北日本（暴風，大雨，高波）＜台風第12号＞

8月25日09時にマリアナ諸島の西の海上で発生した大型の台風第12号は、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、30日に小笠原諸島付近で進路を北西に変え、9月2日には勢力を保ったまま四国地方に接近、3日10時頃に高知県東部に上陸した。その後も、台風はゆっくりと北上を続け、四国地方、中国地方を縦断し、4日未明に日本海に進んだ。西日本から北日本にかけての一部で大雨となり、西日本の一部で暴風となったほか、西日本太平洋側で大しけとなった。第2図に8月30日から9月5日にかけての総雨量分布図(解析雨量)を示す。

この台風の影響により、和歌山県で死者52名、行方



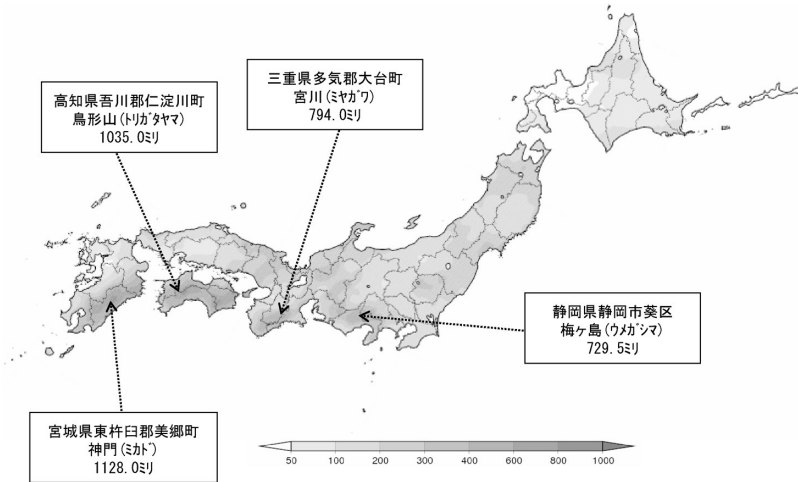
第2図 総雨量分布図(解析雨量) (期間：8月30日～9月5日)。

不明者5名となったのをはじめ、全国で死者78名、行方不明者16名となった。また、北海道から四国にかけての広い範囲で床上・床下浸水などの住家被害、田畑の冠水などの農林水産業への被害、鉄道の運休などの交通障害が発生した。また、和歌山県や奈良県では豪雨に伴う山崩れにより河道閉塞(天然ダム)が生じた。(被害の状況は平成23年12月28日内閣府まとめによる)

(10) 9月15日～9月22日：全国（暴風，大雨，竜巻，高波）＜台風第15号＞

9月13日15時に沖ノ鳥島の北東海上で発生した台風第15号は、進路を西北西に変えた後、南大東島付近で反時計回りに円を描くように進んだ。その後北東へ進み、21日14時頃に静岡県浜松市付近に上陸、その後も北東へ進み、22日15時に千島列島付近で温帯低気圧に変わった。西日本から北日本にかけての一部で大雨や暴風となった。また、東海地方付近では、有義波高が9mを超える猛烈なしけとなった。台風から流れ込む湿った空気により大気が不安定となって、21日には埼玉県で竜巻が発生した。第3図に9月15日から9月22日にかけての総雨量分布図を示す。

この台風により、全国で死者18名、行方不明者1名



第3図 総雨量分布図（期間：9月15日～9月22日）。

となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生した。農林水産業被害や停電被害、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。（被害の状況は平成23年12月28日内閣府まとめによる）

(11) 9月25日～9月27日：鹿児島県（大雨）＜前線＞

25日から27日にかけて、奄美大島付近から日本の東海上に前線が停滞し、南西諸島の一部で大雨となった。

このため、鹿児島県などで死者・行方不明者1名となったほか、家屋損壊や浸水、土砂災害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(12) 11月18日～11月20日：鹿児島県（大雨，暴風，竜巻）＜低気圧，冬型＞

不明者が3名となったほか、家屋損壊、浸水、土砂災害、電力障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(13) 12月3日～12月4日：西日本から北日本（大雨，暴風）＜低気圧，冬型＞

四国沖の前線を伴った低気圧が発達しながら北東に進み、4日には北海道の東海上に達し、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。関東地方および伊豆諸島の一部で大雨となり、北日本では暴風となったところがあった。

このため、宮崎県などで死者・行方不明者が2名となったほか、浸水、土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

（気象庁予報部予報課）

東シナ海と朝鮮半島付近の低気圧がそれぞれ前線を伴って東に進み、日本付近を通過した後、冬型の気圧配置になった。このため、西日本から北日本にかけての一部で大雨や暴風となった。

また、18日は、前線が九州の西海上にのびており、前線の南側にあたる奄美地方は、南から湿った空気が流入し、大気の状態が不安定となり、鹿児島県徳之島町で竜巻が発生した。

低気圧や冬型の影響により、鹿児島県で死者・行方